

第9回 全国自立援助ホーム長研修会・総会報告

この号の内容

1 ページ

第9回
全国自立援助ホーム長
研修会・総会報告

2 ページ

女性スタッフ研修会報告

3 ページ

ホーム長紹介

4 ページ

全国大会開催県の紹介

5 ページ

広報委員会よりお知らせ

月日：平成28年4月25日(月)～26日(火)

会場：ホテルサンルートプラザ名古屋

次第：開会及びあいさつ(会長 星 俊彦氏)

来賓紹介

行政説明(厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課

社会的養護専門官 寺沢 潔司 氏)

報告『2015年全国自立援助ホーム実態調査』 調査研究委員長 前川 礼彦 氏

『利用者調査』 北海道教育学研究院教授 松本 伊智郎 氏

質疑応答

新規ホーム紹介

閉 会



「全国自立援助ホーム実態調査 発行」

調査研究委員会 委員長 前川 礼彦

第9回

全国自立援助ホーム長
研修会・総会 報告

この度「2015年度 全国自立援助ホーム実態調査報告書」を発行しました。この調査は北海道大学教育学研究院の松本伊智朗先生との共同研究として、「ホーム調査」と「利用者調査」の2本柱で行いました。調査に協力して下さった各ホームの皆様には、御礼申し上げます。ホーム調査では「ホームの運営」「退居に向けた支援」「退居後の支援」「その他」と分類して調査を進めました。106ホーム(2015年4月1日付会員ホーム数)に調査した結果、7割強が10年以内に設立されたホームであり、9割を超える職員が10年未満の勤続年数で、うち、3年未満が約半数という実態の中、多様化、重篤化した困難を背負っている利用者への支援に日々奮闘されていることがわかりました。運営では暫定定員を経験したホームが全体の4割にも上り、厳しい運営を強いられていることも自立援助ホーム全体の課題として対策を考えなければなりません。

利用者調査では全国の自立援助ホームの在籍者489人、退居者347人を対象とし、過去3回の全国調査と比較しながら進めました。児童相談所からの入居の打診が顕著に増えたものの、社会的養護を経験していない利用者が約半数である中、支援の課題としては、利用者の約3割が退居時には無職で貯金もなく、十分な準備が出来ないまま退居していることもわかりました。また、退居後1年以内でも1割は連絡が取れなくなっており、退居後支援の保障も求められています。

この報告書には自立援助ホームを運営するにあたり、取り組むべき課題が網羅されています。各ホームに1冊送られていますが、茨城大会にて1冊500円で販売致します。各ホームの運営、支援のあり方を検討するにあたり、是非ご参考にされて下さい。

平成 28 年度 女性スタッフ研修

月日：平成 28 年 7 月 12 日（火）～13 日（水）

会場：新潟県新潟市万代市民会館

次第：

1 日目 講義

『子どもたちと暮らして思ったこと ～チームワークに支えられて～』

講師：元 三宿憩いの家 三好 洋子氏

2 日目 グループ討論（1 日目の講義を受けての議論）

女性スタッフ
研修会報告

「女性スタッフ研修」

たいむ（新潟市）川上 和子

女性スタッフ研修会を新潟県で開催するにあたり、長く「憩いの家」で寮母を務めてこられた三好洋子さんに、講師をお願いしました。三好さんから、できるだけざっくばらんに皆で話せる場にしたい、というご希望をいただき、「子どもたちと暮らして思った事～チームワークに支えられて～」という題で、全員参加型の研修となりました。

たいむでは、5名のスタッフと調理スタッフ、ボランティアさんなど様々な大人が関わっています。私は以前、不安や怒り、哀しかった気持ちなど、ネガティブな気持ちを話すことにとっても抵抗がありました。しかし、自分の気持ちを「言葉に出す」「受け止めてもらえる」という経験が、人と人の繋がりをより強くするのだと、たいむの中で学ぶことが出来ました。

チームとして、大人同士がオープンでフェアな関係であることで、子ども達は大人の顔色を窺わずに様々な話ができるのではないのでしょうか。大人たちが繋がりを強くし、子どもたちを支えられるチームになっていけたらと思います。三好さんのお話は、日々の生活に追われる私たちが、改めてチームの大切さ、重要性を振り返る機会をくださいました。

また今回、全国自立援助ホーム協議会の広報委員会から、中堅スタッフ座談会の冊子が発行されました。質問は、入職のきっかけ、仕事、プライベート、ホームの未来、と多岐にわたる内容です。私はたいむに入職してから4年が経ちました。離職率が高いといわれるこの職種で、ここまで続けてこられたのはチームに支えられてきたからであり、研修等で出会う魅力的な先輩、力強い仲間と日々の苦労や喜びを共有できるからだと感じています。まさに、今回の研修と繋がるものがあり、ホーム内だけでなく全国の自立援助ホームがチームとして繋がりを強くしていることを感じました。新潟で女性スタッフ研修会を開催する機会をいただいたこと、本当に多くのホームからご参加いただいたこと、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



【ホーム長 紹介】 このコーナーでは、全国のホーム長の素顔をご紹介致します。

シーズ南平岸（札幌市）

ホーム長 屋代 通子



ホーム長 紹介

全国の自立援助ホームのみなさま、こんにちは。
北の離れ島、北海道で自立援助ホームを始めてまる 6 年になる
シーズ南平岸の屋代です。

設立時から事務局として運営に携わっていましたが、2013 年から
二代目ホーム長をしています。もともと福祉畑の人間ではなく、
経験の裏打ちがないため、内心ではおどおど気後れを感じつつ、
せめてフットワークくらいは軽くせねば、自ら動くホーム長を目指し

（却って邪魔になっ）ています。当初、「誕生日には必ず手作りのケーキ」をモッ
トーにしていたのですが、近ごろは若い職員さんがケーキを手作りしてくれて、出番が
なくなったのは寂しいけれども、思いが受け継がれていくことに嬉しさも感じます。

協議会の研修等でもおなじみの、東京国際大学の村井美紀先生の講演を拝聴して高
年齢児へのサポートの必要性を痛感し、それがシーズ南平岸の開設へと繋がっていき
ました。大切にしているのは、自ら経験できるよう見守り、こちらの「こうあってほ
しい」を押し付けないこと。とはいえ、見守るだけでは、人間としてまだ固まってい
ない思春期の彼女たちの、成長のチャンスとタイミングを外してしまうことにならな
いか、悶々とするこもしばしばです。そんな時、各ホームから届くホーム便りがと
ても励みになり、食べるように読んでしまいます。

いま、退居した子たちがちょっとした出産ブーム。ホームにいる子たちはもとよ
り、新米お母さんたちにもほっとできる空間であれたらな、と願う今日この頃です。

夢住の家（長野県）

ホーム長 鎌原 崇将



自立援助ホームの皆様、こんにちは！

平成 24 年夢住の家開所当初にスタッフとして関わらせていただいた
御縁で、平成 27 年 4 月よりホーム長に就任いたしました鎌原崇将（かんばらたかま
さ）です。

今年度で 5 年目がスタートしました。この 4 年間には閉所に追い込まれてしまうくら
い大変な時期がありました。しかし、一般財団法人長野県児童福祉施設連盟のバック
アップがあり自立援助ホームを無くすわけにはいかないと思い、県への働きかけをして
いただき、立て直しをすることが出来ました。

社会的養護における自立援助ホームの役割はますます重要性を増し、支援の充実も期
待されるところであります。これに答えるため、夢住の家の基本方針である「児童に寄
り添った自立支援」を堅持し、「児童の最善の利益」を目指して最大限の努力をして参
ります。今後は退居者支援にも力を入れ、退居した子供たちが困った時に頼れる場所、
心の拠り所、いつでも帰って来られる家を作っていきたいと思っています。

これから、ますます需要が高まる自立援助ホームを全国の皆様のお力を借り、頑張っ
ていきたいと思っております。

全国自立援助ホーム協議会 第23回 茨城大会

生き辛さを抱えた若者たちへの支援 ～自立援助ホームが向かうべき未来～

開催日：平成28年10月20日（木）～21日（金）

会場：ホテルグランド東雲（茨城県つくば市小野崎488-1）



全国大会の
お知らせ

【全国大会開催県（茨城県）紹介】

みらい ホーム長 水野 洋

自立援助ホームには“生き辛さを抱えた若者たち”が入居しています。経験の浅いホームが、これらのハンデを持つ若者に対し、より良い支援を行うことは難しい事です。専門家や学者と連携し、支援のあり方を学び、職員の資質向上が必要であると思えます。

職員が1人で対応するより、複数の職員がチームとなり対応する方が、より良い支援をすることができます。これはホームにも当てはまり、一つのホームが孤軍奮闘するよりも、ホームの垣根を取り払い、協力し合い、問題に当たる、その方が良い結果を導けるでしょう。地域や専門家との連携も同じであり、お互いの長所を理解し、協働で子ども達を見守り支え続ける、第23回茨城大会が、その一助となることを期待しています。

さて、茨城県ってどんなところ？と聞かれると、昨年度3年連続全国魅力度ワースト1位を記録した魅力のない県と自虐的に答えてしまいそうですが、東は大洗海水浴場、西には筑波山などの山々、中央から南にかけて関東平野と日本で2番目に大きい湖の霞ヶ浦があります。観光客の総数は年間約3,223万人で全国15位です。決して魅力がない県とは思っていません。ワースト1位の汚名返上のため、更に本県の魅力を少し紹介したいと思います。

土地の豊かな茨城県は、白菜、ピーマン、メロンといった野菜の生産量が全国1位です。シーズンになると白菜1つ150円、ピーマン1つ15円で購入できるんですよ。有名な納豆の生産量はもちろん1位。意外ですがビールの生産量も1位です。畜産も活発でローズポークや常陸牛など、とてもおいしいです。本大会では、常陸牛のハンバーグを出す予定ですので、楽しみにしてください。また、冬の味覚、北茨城市のアンコウは、皇室にも献上されたことがあるそうです。車で北からお越しの方は、是非アンコウをご堪能ください。

観光名所がやや弱い茨城ですが、10月下旬から色づき始める筑波山の落葉樹は一見の価値があります。つくば市の学園東大通りは、日本百選に入るきれいな道です。ホテル東雲の前の学園西大通りも、とても景観が良く整備されている道だと思っています。紅葉の季節は側道のイチョウがとてもきれいです。あまり知られていませんが、阿見町にある予科練平和記念館は穴場です。若くして散っていった特攻隊員の手記が数多くあり、荘重な空気が漂っています。記念館の外には90式戦車など15台ほどの戦車や野砲が展示されています。牛久大仏も全高120mと、ブロンズ立像としては世界一の高さで、初めて見る人は、ほぼ全員「デカッ！」と言ってしまいます。

是非、皆さんで足を延ばして本当に全国魅力度ワースト1位なのか確かめてみてください。

広報委員会から
のお知らせ

全国自立援助ホーム協議会 広報委員会 特別企画 中堅スタッフ 座談会
～これからの自立援助ホームの展望～未来を担う次世代の思いと希望～
「先日、協議会ホームページで配信した座談会が冊子になりました。
全国大会にて配布します！」



広報委員会で企画した中堅スタッフによる座談会ですが、女性スタッフ研修にて冊子を配布したところ、とても好評でしたので、増刷を決めました。

この増刷により、より多くの方のお手元に届き、目を通して頂きたいと思っております。

広報委員会 松木 良介

「全国自立援助ホーム協議会 ホームページ」のお知らせ

自立援助ホーム



ホームページアドレス

<http://zenjienkyou.jp/>

ご存知ですか？
役立つ情報
いっぱいです。



「こんな情報を載せて欲しい」など、
ご要望がございましたら、広報委員までご意見お寄せ下さい。

【編集後記】

先日、厚生労働省の来年度概算要求の概要が発表されました。その中には、児童福祉法の改正により、自立援助ホームは22歳の年度末までの間にある大学等就学中の者を対象とすることと併せて、大学就学中以外の自立援助ホーム入居者や児童福祉施設の退所者のうち、引き続き支援が必要な者に対し、原則22歳の年度末まで支援を継続する事業を新たに創設すると打ち出されました。今後の自立援助ホームの機能とあり方が大きく問われ、改めて自立援助ホームの立ち上げの精神や存在意義を見つめ直し現場サイドの活発な議論が急務と言えるでしょう。また、来年は改正民法案が国会に提出される予定で、2021年には正式に18歳成人誕生の様相です。ホームの中で様々な混在が予想され、今回の全国大会の場でも、大きく取り上げる必要がある緊急課題として注目すべきところです。

広報委員長 新井 秀親